

国見学園コミュニティ・スクールだより

学校・家庭・地域の連携と保幼小中一貫教育

令和6年9月（事務局：国見町教育委員会教育総務課 ☎585-2119）



～県北中学校2年生との熟議特集～

第3回国見学園コミュニティ・スクール委員会を8月28日（水）、県北中学校を会場に開催しました。当日の様子についてご紹介します。

10年後、どんな国見町にしたい？そのためにできることは何？

中学2年生にも参加いただき、8つのグループに分かれて熟議を行いました。テーマは「10年後、どのような国見町にしたいか」、そのために「自分ができることは何か」とし、10年後の国見町について子どもと大人が一緒になって考えました。また、視察に訪れていた県北教育事務所主任社会教育主事の青木秀正様（前 県北中学校教頭）から総括のお話をいただきました。



本日の熟議

10分

10年後の国見町を考える

①10年後、どのような国見町にしたいですか？
ピンク色の付せんに書き出す。

※付せん1枚に1つの内容を記入してください。

2024/8/28

各班を代表して中学生が発表（一部抜粋）

<自然・環境・住みやすさについて>

- 自然豊かで誰もが心地よく住める美しい町にしたい。そのために、開拓するだけでなく、しっかりと自然を残すことが大切である。また、ゴミのポイ捨て防止のために、ゴミ箱づくりなどリユースサイクルを心がけたい。
- 町の課題について協力しながらひとつひとつ解決していける町にしたい。そのために、ボランティアの募集などがあれば積極的に参加していく。

<産業・特産品について>

- 農業が盛んで果物をはじめとした町の特産品が増えている町にしたい。そのために、品種改良に補助金を出すなど、栽培環境の整備に力を入れてほしい。また、国見町で作られた野菜や果物を広くPRし積極的に購入するなどして、農業の手助けをしたい。
- 国見発祥の産物を作ってPRしたり、地元の野菜を使った飲食店を作ったりしたい。

<誰もが活躍できる町づくりについて>

- 若い人が働ける場所がたくさんある町であってほしい。そのためにも自分自身が国見町で働きたい。また、若者が会社を立ち上げたり、続けていけるような支援が必要である。

<交流について>

- いつまでも元気で、優しい心を持つ町民が暮らす町にするために、あいさつを交わすことや小さな子どもからお年寄りまでふれ合える施設ができるとうい。



- 外国人も楽しめる町、世界とつながれるような、日本と世界の交流の拠点となるような町にしたい。そのためにも町の行事に積極的に参加し、国見町をもっと知るための活動をしていくことが大切だと思った。



<賑わいのある町づくりについて>

- YouTubeチャンネルを作るなどして町民で町をPRしていきたい。
- 音楽フェスを立ち上げたり、国見町の歴史や道の駅をPRしたい。

<安全について>

- 交通事故がない町、災害発生時に事故がない町であってほしい。そのために交通安全の呼びかけをしていきたい。また、建物の強化や避難所の整備が必要である。



<教育について>

- 子どもが町内の学校に通うことができる町であってほしい。そのために、他と違う新しい学校、大学や高校ができるとよい。また、町の歴史を大切にする教育が必要だと思う。
- 最先端の施設・設備で勉強できる町になってほしい。



<その他>

- ショッピングモールが増えてほしい。商店街だけにお店があるのではなく、いろいろなところにお店を作って町を豊かにしたい。
- たくさんの人と関われ、仲良く生活できる町にしたい。そのために、地域の人と関われる場所やイベントなどを増やすとよい。
- 道の駅を利用する町民を増やしたい。道の駅に町内の人が集まるイベントや、道の駅をステージにして子どもたちが発表する場を設けたり、百円ショップを作るとよい。
- ベビーシッターや公園を整備したり、子育て支援が充実した町にしたい。
- 使い終わった小学校を活用したり、町民の意見を取り入れ税金の無駄遣いがなく、お年寄りが住みやすい町であってほしい。
- これまで出てきた意見が実現できれば自然と人口は増えてくるのではないかと。

熟議に正解はない～熟議から感じたこと～ (一部抜粋)

福島県教育庁県北教育事務所 主任社会教育主事 青木秀正 様

- 一人一人が自己紹介しているときに拍手があった。とても素晴らしいことである。今日のような場が苦手な人もいると思うが、それでも皆さんはとても頑張っていた。
- 熟議には正しい答えはない。一生懸命に一緒に考えて、一生懸命に他の人の話を聴いて、どうしようかと悩むことが重要である。
- 熟議の様子から中学生の皆さんは、100点満点であった。各班からの報告も中学生の皆さんが行った。短時間で大勢の前で素晴らしい発表ができた。すごいことである。
- 中学生とCS委員の皆様が接することで、お互いの声に耳を傾けるよい機会となったように思う。

